

平成31年度 決算書

町の家計簿

ダイジェスト版

「北緯45度 癒しの里」

ロマン息づく大自然の町ー中頓別



目次

平成31年度決算状況	1
監査委員の決算審査意見	14

令和2年11月
中頓別町

平成31年度各会計の決算額は、下記のとおりです。

本年度の一般会計も含めた8会計の予算総額は、55億8,228万円で前年度と比較して、3億6,075万円の減額予算となりました。

歳入面では、予算総額に対し、5,189万円の減収となりましたが、55億3,039万円を確保し、一方、歳出面では、予算総額に対し、2億5,927万円の不用額が発生し、53億2,301万円の執行となり、次年度に繰越して利用できる財源が2億738万円となりました。

本町は、町税等の自主財源が少なく、国から交付される地方交付税に頼っている財政基盤の脆弱な町であることから、今後とも財政の健全化を図りつつ、住民生活の向上や住民福祉の増進に努めてまいります。

以下個別の内容について申し上げます。



各会計ごとの決算状況

会 計 の 名 称		会 計 の 内 容	収 入	支 出
一 般 会 計		町の一般的な仕事をする会計で下記の会計を除いたものです。	41億8,605万円	40億0,865万円
自 動 車 学 校		教習生の授業料などを収入に普通自動車免許、大型特殊免許の講習を行っています。	4,244万円	4,223万円
国 民 健 康 保 険		国民健康保険税などを収入に加入者の医療費の給付などを行っています。	2億1,717万円	1億9,435万円
国 保 病 院	収 益 的 支 収	医療収益を基に町民への医療サービスを行っています。	5億2,507万円	5億1,433万円
	資 本 的 支 収		5,824万円	6,930万円
水 道		水道使用料を収入に浄水場などの維持管理と町民への給水サービスを行っています。	1億0,215万円	1億0,167万円
下 水 道		下水道使用料を収入に終末処理場の維持管理と下水道サービスを行っています。	1億5,925万円	1億5,876万円
介 護 保 険		介護保険料などを収入に要介護認定を受けた方に介護・支援サービスを行っています。	2億1,166万円	2億0,557万円
後 期 高 齢 者 医 療		老人保健制度に替わる制度で、保険料などを収入に広域連合などの負担金の支払いを行っています。なお、医療費などの給付は全道すべての市町村で構成する後期高齢者医療制度広域連合が行っています。	2,836万円	2,815万円
合 計			55億3,039万円	53億2,301万円

財政健全化法による 健全化判断比率及び資金不足比率

◆財政指標(1)

区分	健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	15.0%	20.0%
連結実質赤字比率	—	20.0%	30.0%
実質公債費比率	-1.4%	25.0%	35.0%
将来負担比率	—	350.0%	

※実質赤字比率、連結実質赤字比率は赤字がないため、比率は発生しませんでした。

※将来負担比率は将来の負担額より地方交付税で措置される額や基金(貯金)の現在高を合わせた額のほうが大きいいため、比率が発生しませんでした。

実質赤字比率

福祉や教育、観光や道路建設など行政運営の基本的な経費をまとめた一般会計における赤字の程度を指標化したもの

実質公債費比率

一般会計の借入金返済額のほか、特別会計の借入金に対する負担額や借入金に準じた経費の負担額を合算して指標化したもの

連結実質赤字比率

全ての会計の赤字や黒字を合算したうえで、町全体の赤字の程度を指標化したもの

将来負担比率

実質公債費比率の算定に基づく経費のほか、職員の退職手当、一部事務組合などの負債のうち、一般会計が将来負担する可能性のある額の大きさを指標化したもの

◆財政指標(2)

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
国民健康保険病院事業	—	20.0%
水道事業	—	
下水道事業	—	

※いずれの会計も赤字がないため、比率は発生しませんでした。

資金不足比率

それぞれの公営企業会計の赤字額を、料金収入などの事業規模と比較して指標化したもの

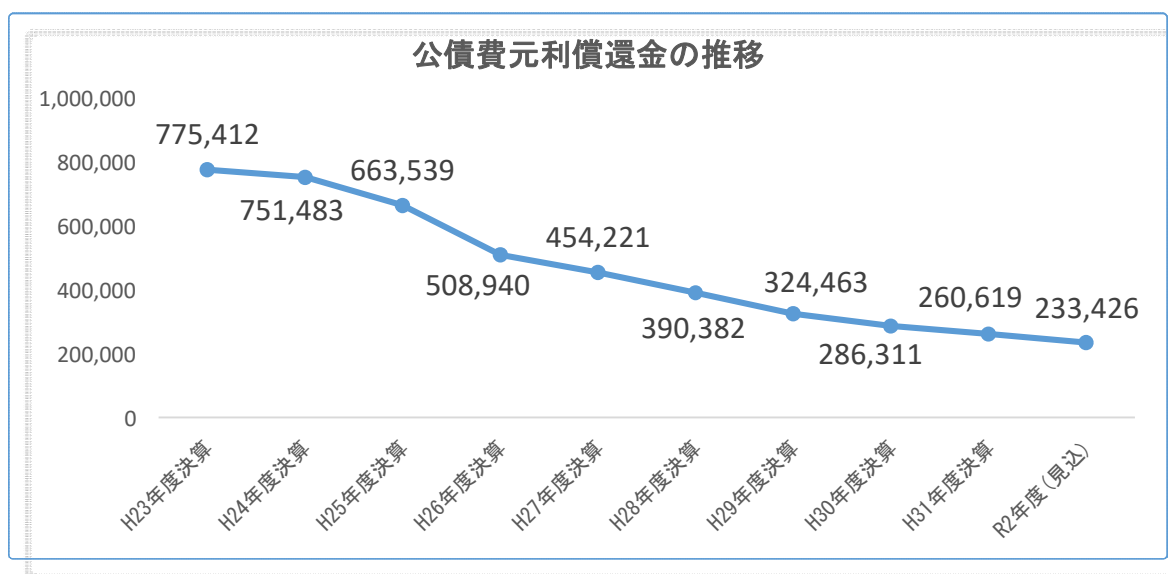
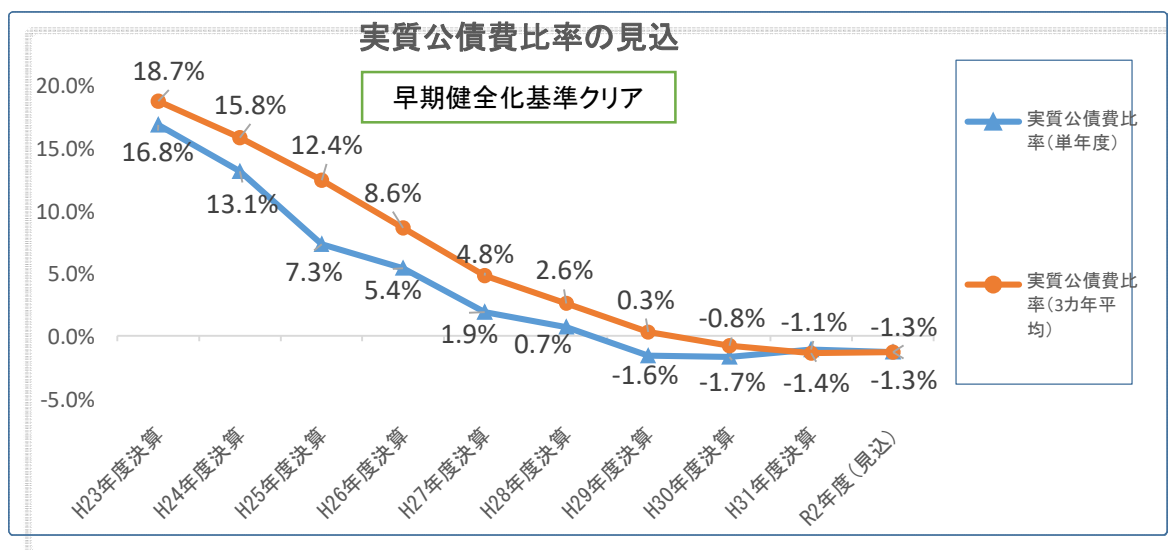
実質公債費比率 -1.4%

平成29年度～平成31年度の3カ年平均

実質公債費比率とは、町の収入に対する町全体の借金返済額の比率を示す財政指標です。

今年度は、昨年度の実質公債費比率-0.8%より0.6ポイント減少した結果、実質公債費比率は-1.4%となり、国の制約を受けない協議団体となっております。財政健全化法による健全化判断比率の実質公債費比率は3カ年平均で算定されます。

今後も引き続き地方債借入額を最小限に抑えるとともに、後年度の返済に係る財源を積み立てるなど、公債費負担の軽減を図りながら、財政運営の健全化に努めていきます。



※ 公債費元利償還金は、決算統計のルールに従って算出した推移ですので、決算の数値とは異なります。

な か と ん

中 嶋 さん ち

収 入

1ヵ月の収入合計42万7千円(46万8千円)の内訳

給料(65.9%)

28万1千円(33万円)

基本給 1万6千円
町税 1億6千万円

能力(歩合)給 21万9千円
地方交付税 地方譲与税などの国 からの交付金 21億5千万円

手 当 4万6千円
国庫支出金 道支出金 4億5千万円

一般会計を
1世帯あたりに例えた場合

預金引き出し(7.5%)

3万2千円(2万6千円)

繰入金 3億1千万円

パート収入(3.9%)

1万7千円(2万円)

使用料・手数料など 1億6千万円

ローン借入れ(18.2%)

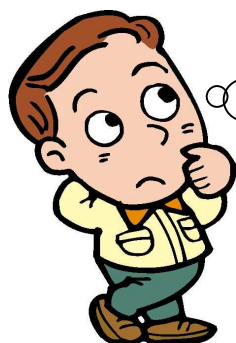
7万8千円(8万円)

町債 7億6千万円

前月からの繰越金(4.5%)

1万9千円(1万2千円)

繰越金 1億9千万円



今月は、前月からの繰越金が多めに残ったけど、給料が減ったうえに預金を多めに引き出してしまった。これから収入は減ってくるかもしれないし、できるだけ節約して頑張っていこう。

金額を記載している()は前年度金額

の家計簿

支出

1ヵ月の支出合計40万9千円(43万6千円)の使いみち



家賃・光熱水費(26.6%)

10万9千円(6万円)

総務費
10億7千万円



医療・衛生費(12.9%)

5万3千円(4万6千円)

衛生費
5億2千万円

衣料・食料費(21.7%)

8万9千円(14万4千円)

民生費・農林水産業費・商工費
8億7千円

子供の学費(7.5%)

3万1千円(4万7千円)

教育費
3億円

家や道路の整備代など(8.7%)

3万5千円(2万5千円)

土木費
3億5千万円

その他(13.5%)

5万5千円(7万4千円)

議会費・労働費・消防費など
5億4千万円

ローン返済(9.1%)

3万7千円(4万円)

公債費
3億7千万円

今月も先月に引き続き将来に備えるための貯金ができたわ。家賃・光熱水費の出費が大きかったけど、衣料・食料費を抑えることができたわね。これからはしっかり貯金してがんばらないと。ローンも減ってきてはいるけど、今もローン借入れはしているし安心ができないから、より一層節約してがんばらなきゃね。



金額を記載している()は前年度金額

特別会計への繰出金



総額 5億4,977万円
(対前年比7,006万円増えました)

特別会計は独立採算性が基本です。お金が足りない場合は、一般会計の仕事を我慢してもらって繰り出すこととなります。つまり、町民の皆様へのサービスを一部我慢してもらうこととなります。この繰り出しが多いことは健全な財政とはいえません。ただし、特別会計繰出金の中には国の制度により繰り出すもの（ルール分）があります。このルール分は削減できませんが、それ以外の不採算運営費（赤字）に伴う繰出金の削減が、財政の健全化のための重要な課題といえます。

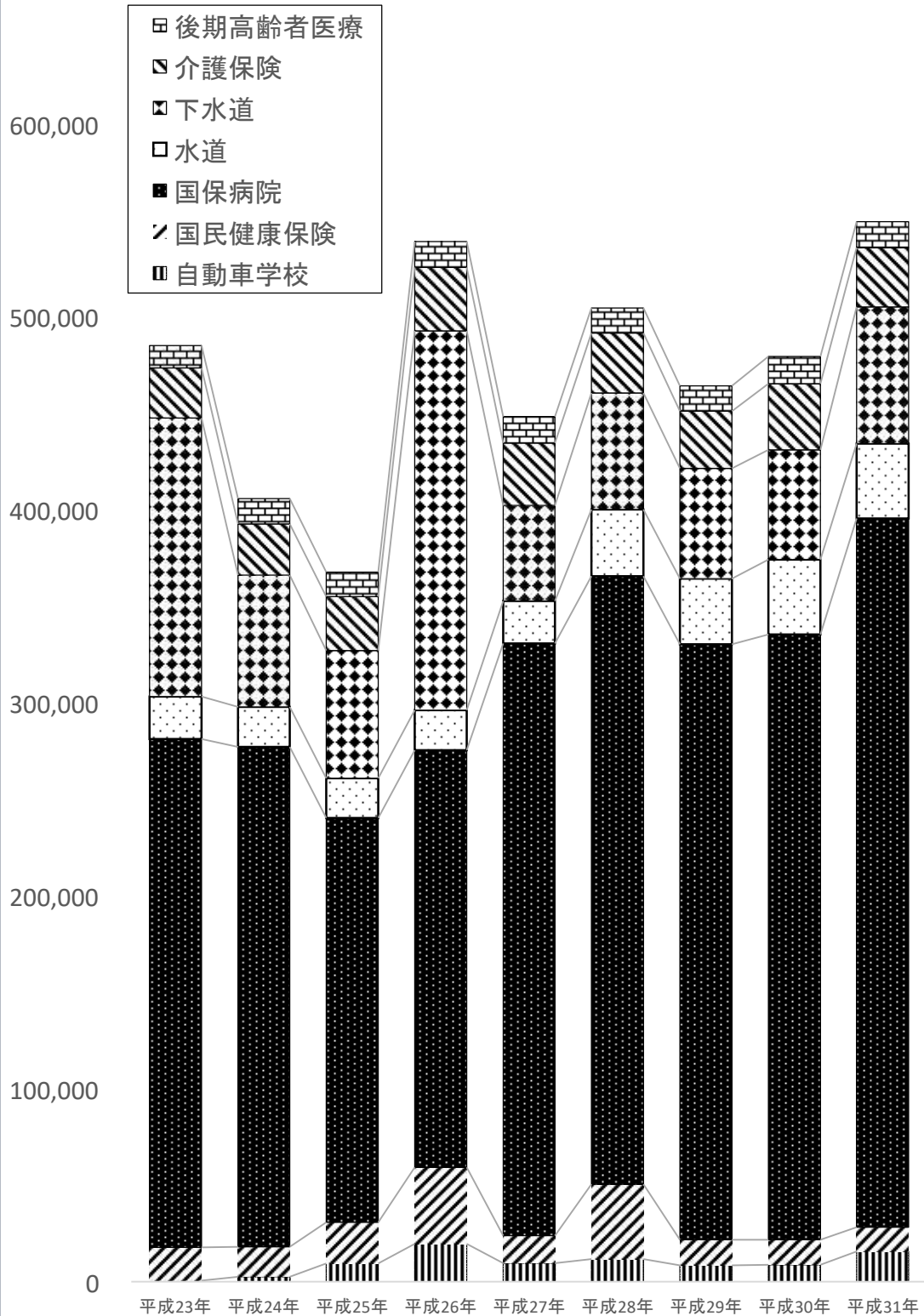
	平成31年度	平成30年度	増減
☆ルール分のみ繰り出しの会計			
●国民健康保険へ	1,263万円	1,286万円	▲ 23万円
●介護保険へ	3,075万円	3,424万円	▲ 349万円
●後期高齢者医療へ	1,342万円	1,408万円	▲ 66万円
☆不採算運営費補てんのある会計			
●自動車学校へ	1,580万円	880万円	700万円
うち不採算分	1,580万円	880万円	700万円
●国保病院へ	3億6,752万円	3億1,393万円	5,359万円
うち不採算分	2億7,082万円	2億6,683万円	399万円
●水道へ	3,887万円	3,880万円	7万円
うち不採算分	1,847万円	1,678万円	169万円
●下水道へ	7,077万円	5,700万円	1,377万円
うち不採算分	3,288万円	3,361万円	▲ 73万円

(単位:千円)

事業名	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
自動車学校	600	2,492	9,389	19,669	9,600	11,720	8,400	8,800	15,800
国民健康保険	17,231	15,600	21,338	39,605	14,292	38,743	13,384	12,859	12,632
国保病院	263,624	259,297	209,631	216,401	307,038	315,395	308,759	313,931	367,520
水道	21,937	20,684	20,684	20,685	21,989	34,461	33,923	38,800	38,872
下水道	144,500	68,300	66,260	196,630	49,484	60,567	57,295	57,000	70,774
介護保険	25,959	26,506	27,941	32,850	32,556	31,008	29,632	34,239	30,753
後期高齢者医療	11,603	13,107	12,600	13,491	13,681	12,943	13,198	14,080	13,422
合計	485,454	405,986	367,843	539,331	448,640	504,837	464,591	479,709	549,773

特別会計への繰出金の推移

(単位:千円)



平成31年度の主な事業

■道路

中頓別駅向線交付金事業

3,301万円

中頓別弥生線(あさひ橋)交差点から宮下地区へ向かう町道で、100mの改良工事を実施しました。

秋田原野線交付金事業

3,453万円

かえで団地付近から秋田地区へ向かう町道で、実測線調査設計200mと支陸橋の架換工事(ボックスカルバート)を実施しました。

橋梁修繕事業

4,846万円

藤井地区へ通じる藤頓橋と敏音知地区にある松栄橋の補修工事を実施しました。

金庫の沢線交付金事業

4,274万円

中頓別弥生線交差点から鍾乳洞へ向かう町道で、113mの道路改良とボックスカルバート1箇所の実施しました。



■農業・畜産

農地耕作条件改善事業

6,550万円

松音知地区において、大規模搾乳農場の建設や哺育育成センターの整備計画を進めている状況にあることから、既設の道路では大型化された農業用機械等の通行に支障をきたすことから農道の整備を実施しました。また、集乳農道の未整備農家等においてもミルクローリーの通行が容易となるよう農作業道の整備を行うため調査を行いました。

畜産・酪農収益力強化整備等対策特別事業

3,361万円

地域酪農の生産力の向上と収益力の強化を目的に、国からの補助金を活用し、飼料貯蔵施設の整備を行いました。

■林業

林業専用道天北線開設事業

2,838万円

小頓別地区の北電変電所施設付近から音威子府方向の山林内の区間について、林業専用道を整備しました。

林業専用道豊平4号線開設事業

1,740万円

上頓別地区側より町道豊平恵野線を約3km地点の東側の山林内の区間について、林業専用道を整備しました。

■商業・観光

中頓別町山村交流施設管理運営事業

3,631万円

中頓別町山村交流施設(ピンネシリビレッジファームパーク)の施設管理を実施しました。また、新たに宿泊用施設としてトレーラーハウスを設置しました。

観光振興計画フォローアップ事業

2,751万円

観光振興計画スタートアップ委託事業や、中頓別町観光施設再整備基本計画の策定業務を行いました。

なかとんべつ観光まちづくりビューロー運営事業

2,635万円

敏音知地域を中心とする山村交流施設等の観光資源の活用や情報発信を推進し、交流人口の増加や地域の活性化に取り組む一般社団法人なかとんべつ観光まちづくりビューローの運営費を助成し、観光振興を図っています。

■教育

寿野外レクリエーション施設事業

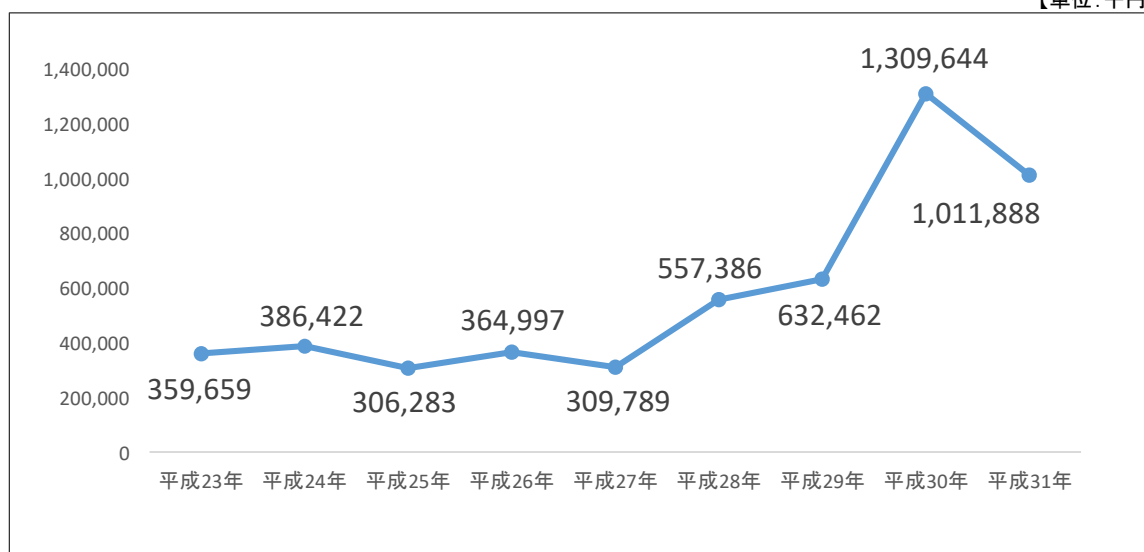
9,760万円

有限会社中頓別振興公社が指定管理者となっている寿スキー場、野外レクリエーション施設、寿公園の管理を行うための経費です。また、寿スキー場ロッジ改修工事や新しい圧雪車の導入を行いました。



一般会計 普通建設事業の推移

【単位: 千円】



紙面等の都合により、臨時的かつ金額の大きい事業を中心に掲載しました。なお、詳細の資料を希望する方は中頓別町役場総務課政策経営室までご連絡ください。また、中頓別町ホームページで詳細資料を掲載しておりますので御利用ください。

中頓別町HPアドレス

<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp/>



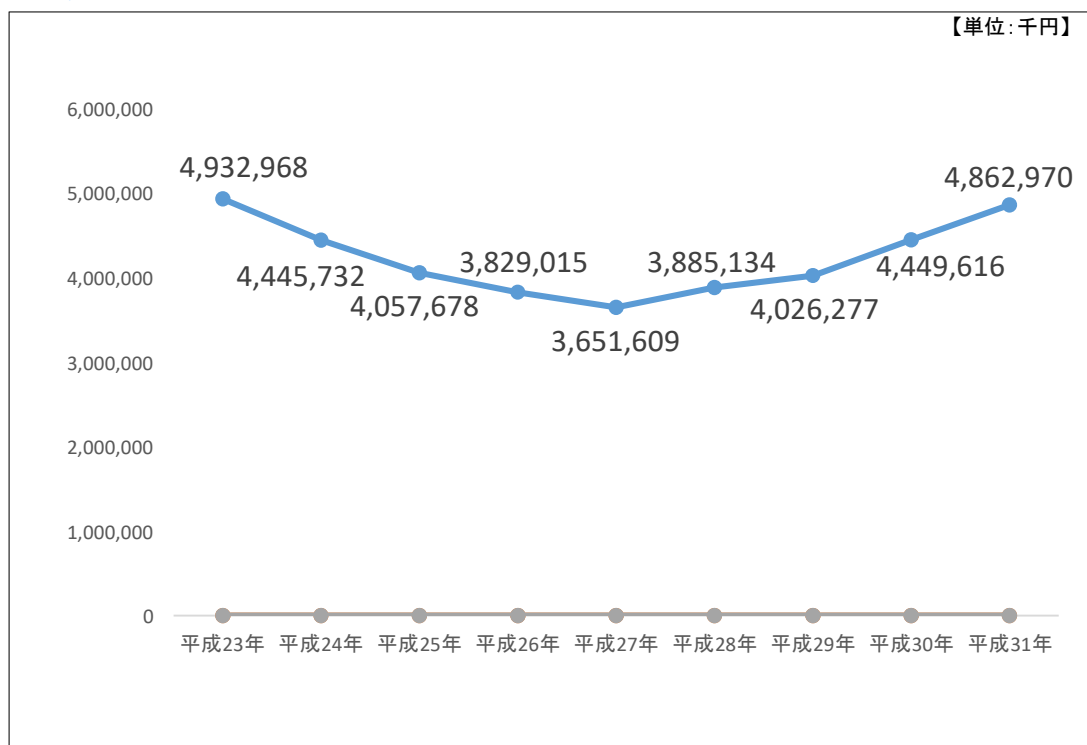
借金(一般会計)

48億6,297万円

(対前年比 4億1,335万円増えました)

平成30年度末	平成31年度	平成31年度	平成31年度末
地方債残高+	借入高-	返済高=	地方債残高
44億4,962万円	7億6,005万円	3億4,670万円	48億6,297万円

中頓別町のこれまでの借入金残高の状況(一般会計)



過去に公共事業を抑制してきたことにより借入金残高が年々減少傾向にありましたが、近年特別養護老人施設の増改修や寿スキー場リフト・ロッジの改修などの普通建設事業の増加に伴い借入額が増加しております。

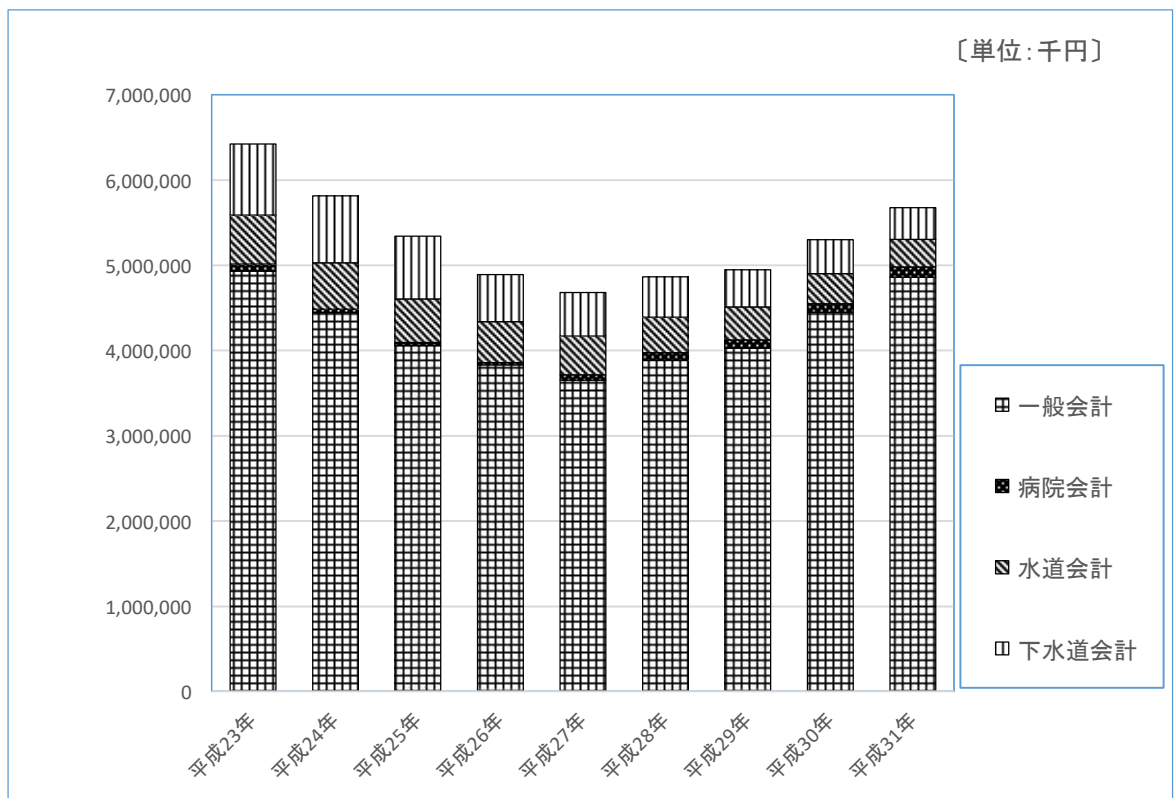
これらの借入金のうちの多くは、返済額の一定割合を地方交付税で国から交付されるしくみになっています。たとえば、もっとも借入額が大きい「過疎債」では、元利償還金の70%が地方交付税で補てんされます。町は公共事業を実施する場合、こうした有利な「借金」を活用するように工夫してきました。

さらに、平成28年度から借金をする場合に、返済に係る財源として交付税で補てんされない分を基金に積み立てております。このことで、後年度の負担が実質無くなることとなります。

借金(全会計) 56億7,470万円 (対前年比3億7,423万円 増えました)

	平成30年度末 地方債残高	平成31年度 借入高	平成31年度 返済高	平成31年度末 地方債残高
一般会計	44億4,962万円	7億6,005万円	3億4,670万円	48億6,297万円
水道会計	3億5,535万円		3,367万円	3億2,168万円
下水道会計	3億9,600万円 +	1,760万円 -	4,233万円 =	3億7,127万円
病院会計	9,950万円	2,470万円	542万円	1億1,878万円
計	53億0,047万円	8億0,235万円	4億2,812万円	56億7,470万円

中頓別町のこれまでの借入金残高の状況



独立採算を基本としている公営企業(水道、下水道、病院)においても事業を実施するため、起債(借金)の借入を行っており、そこに存在する借金は中頓別町が支払うべき借金総額となります。(南宗谷消防組合や南宗谷衛生施設組合などの一部事務組合に対する負担金にかかる分は含まれておりません。)

貯金

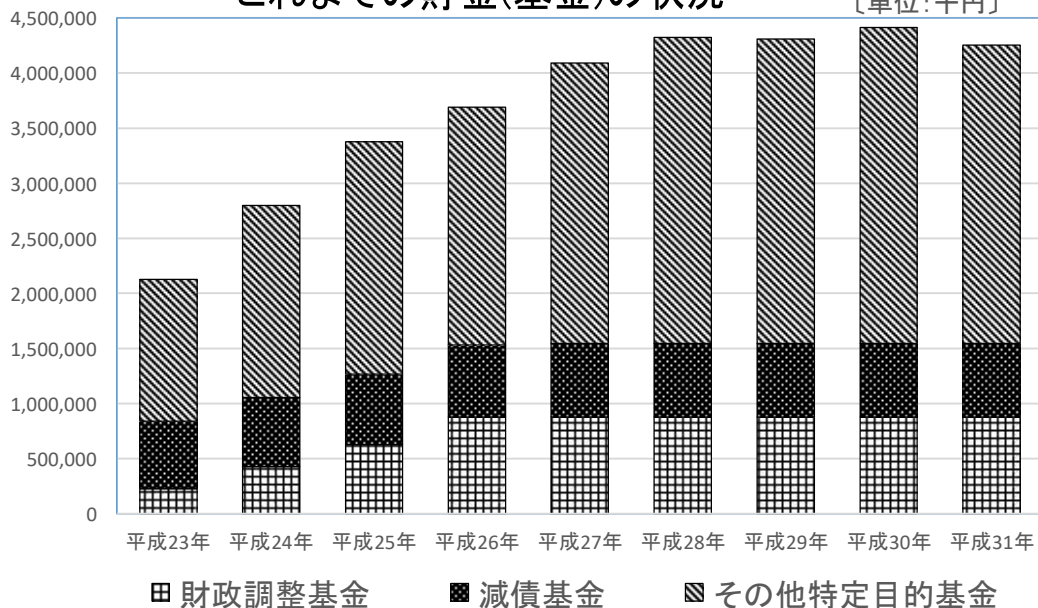
42億5,284万円

(対前年比 1億6,029万円減りました)

	平成31年度	平成30年度	増減
財政調整基金	8億7,842万円	8億7,833万円	9万円
減債基金	6億6,742万円	6億6,735万円	7万円
長寿園施設改修拡張事業基金	3億3,702万円	3億3,733万円	▲ 31万円
天北線代替輸送確保基金	3億0,355万円	3億0,350万円	5万円
畜産振興基金	2,697万円	3,116万円	▲ 419万円
まちづくり基金	1億1,800万円	1億2,631万円	▲ 831万円
土地開発基金	2,202万円	2,202万円	
地域福祉基金	1億1,449万円	1億1,448万円	1万円
中山間水と土保全基金	622万円	623万円	▲ 1万円
豊かな環境づくり基金	474万円	474万円	
ふるさと応援寄附基金	1,308万円	1,159万円	149万円
公共施設整備等基金	7億2,907万円	8億0,096万円	▲ 7,189万円
地域活性化基金	6億6,006万円	5億8,006万円	8,000万円
未来を担うこどもの健全育成と教育の基金	8,946万円	1億0,131万円	▲ 1,185万円
地方創生基金	2億4,968万円	4億0,300万円	▲ 15,332万円
奨学金等償還支援基金	2,306万円	2,064万円	242万円
森林環境譲与税基金	546万円		546万円
介護保険給付費準備基金	411万円	411万円	
水道事業特別会計基金	1万円	1万円	

これまでの貯金(基金)の状況

[単位:千円]



〈コラム〉公表されている決算等の数値に相違が生じる場合があります。

この、「町の家計簿」に用いている数値、金額については、主に各会計での決算書の数値をもとにつくっています。

しかし、他の財政数値として公表されるもののほとんどが決算統計(地方財政状況調査)で集計された数値を使うのが一般的とされています。また、財政状況を示す数値(経常収支比率、実質公債費比率など)についても決算統計で集計された数値を使っています。

各会計決算書と決算統計で集計をする場合に根拠(集計上のルール)が異なるため、数値が異なる場合が生じますので、あらかじめご了承ください。

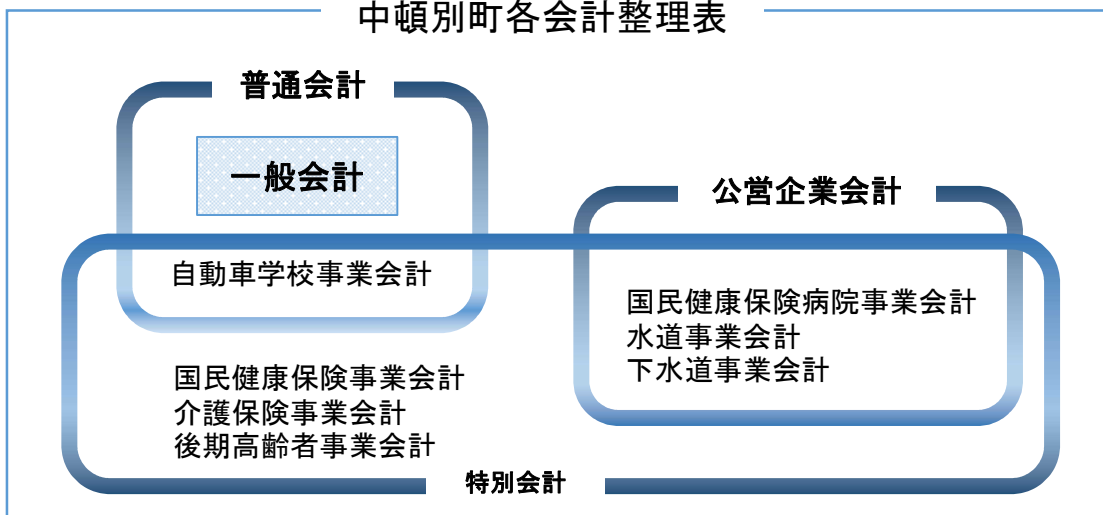
異なる内容として、一例をあげますと、現在、一般会計で、償還(借金の返済)してる起債の一部において、水道、下水道、病院に係るものが含まれています。決算統計のルールとして、そうした費用については、それぞれの公営企業決算統計にて計上することとされているため、普通会計での決算統計では除外されているからです。また、人件費についても、予算決算では総務費で議会、教育、水道等の特別会計を除く全ての人件費を支出しています。しかし、決算統計では、これらの人件費をそれぞれの目的(民生費、土木費など)に振り分けて計上しています。こうしたルール上の金額の組み換え、除外が数点あるため、決算上の数値と決算統計上の数値と異なるという現象が生じてきます。

さらに、各種数値について、一般会計、普通会計、特別会計、公営企業会計等さまざまな財務上の括りがあり、どこの数値を公表しているのか、その表題に必ず記述するようにしていますので、ご確認ください。

※各会計について、わかりやすく記述すると下記のとおりとなります。

今後、数値を公表する場合においては、決算統計の数値を載せています等の注釈を記述し、よりわかりやすい数値、資料の提供を行っていきたいと考えています。

中頓別町各会計整理表



※決算統計上の会計区分

監査委員の決算審査意見

平成31年度中頓別町各会計歳入歳出決算審査は、令和2年6月19日から8月14日(中頓別町国民健康保険病院事業会計)、7月27日から8月14日(中頓別町一般会計等及びその他特別会計)の日程で行われました。監査委員からの決算審査意見書の要旨をお知らせいたします。

~~~~~

## 決算審査意見書の要旨

### 1. 中頓別町国民健康保険病院事業会計

#### (1)現状

平成31年度国保病院事業会計決算は、損益計算書で816円の純利益と微増となり、累積欠損金は85,613千円となっている。

収益的収支の一般会計繰入額が前年度304,812千円から本年度335,659千円と30,847千円増加しており、普通交付税の減少が見込まれる中、他の特別会計と同様に町の財政運営を大きく圧迫している。

町内に養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、知的障害者更生施設を有していることや高齢化率39.5%という状況を考慮すると、現在50床の病院機能を維持していくことは理想となるが、北海道の地域医療構想に基づき有床診療所等への転換を町民の意見を聞きながら慎重に議論を重ね将来的な方向性を早期に示すことで、今後においても町民が安心して住み続けられると考えられる。

現在は常勤医師が2名体制となっているが、平成31年度は1名体制が長く続いたことや医師の休暇や病休に対する代替医師、週末や祝祭日の日当直医師について、地域医療振興財団、医育大学医局等からの派遣により運営していることから費用が割高となり、医業費用に占める給与費の割合が平成31年度においては74.9%と高くなっている。患者数も医師1名では限界があり、1日平均入院9名、外来51名と低迷していることから医業収益の低下を招いている。

#### (2)改革の方向性

常勤医師、看護師の確保による医業費用に占める給与費の逡減と、患者数増による医業収益の向上により運営の効率化を図ることが重要である。



| 項 目 |              |      | 平成31年度  | 平成30年度  | 増減      |
|-----|--------------|------|---------|---------|---------|
| 入院  | 患者数          | 延 数  | 3,436人  | 4,067人  | ▲631人   |
|     |              | 1日平均 | 9人      | 11人     | ▲2人     |
|     | 患者1人1日当り診療収入 |      | 19,422円 | 22,104円 | ▲2,682円 |
| 外来  | 患者数          | 延 数  | 12,266人 | 12,625人 | ▲359人   |
|     |              | 1日平均 | 51人     | 52人     | ▲1人     |
|     | 患者1人1日当り診療収入 |      | 5,785円  | 6,043円  | ▲258円   |

### (3) 具体的な改革事項

#### ① 常勤医師の確保

深刻な都市部への医師偏在により過疎地域における医師確保は極めて困難を伴うが、国に対して医師の地域偏在及び地域格差解消と自治体病院の経営安定のための財政支援を求める声を発し続けながら、関係機関、医育大学、民間への募集活動を継続すべきである。

#### ② 医師及び医療技術者の確保

「医師及び看護師等の養成に関する条例及び規則」を「医師及び医療・福祉技術者等の養成に関する条例・規則」に改正したことを受け、奨学金の借入等の一括返還や新たな養成助成制度の創設と助成対象を拡大したことなど、助成金の拡充を図る取り組みをアピールポイントとして養成機関への募集活動を強化すべきである。

### (4) 留意すべき事項

医師確保について、給与面においてある程度高額な待遇を保障しなければならないことに対する議会を含めた住民合意と、常勤医師2名体制になった後も長期間勤務してもらうため学会、研修機会を保障するための派遣医師を継続する必要があることから、支出削減に向けた検討が必要である。

一方、常勤医師2名体制により、受け入れ可能患者数は増加すると思われるが、近隣町村も含めて過疎化による人口減少が進行している現状では、飛躍的に患者数が増加することを見込むことはできないため、訪問看護事業及びリハビリテーション事業の充実など特色ある病院経営の検討が必要と考える。

## 2. 一般会計及び特別会計(国民健康保険病院事業会計を除く)

平成22年度において早期健全化団体(実質公債費比率判断基準25.0%以下)から脱却し、平成31年度においては△1.4%と着実に財政の健全化が図られている。

しかし、財政力が脆弱な本町にとっては歳入の約5割を占める地方交付税が財政健全化法4指標の算定基礎となる標準財政規模(分母)に大きく影響し、国の経済情勢、本町の人口減少などから、令和2年度においては約5千万円(約3%)増加となっているものの、将来とも安定した交付額を期待することはできない。

平成31年度末の公債借入残高(町債元金)は、56億7千5百万円(前年度末53億円)と年々増加していることが将来的に重い負担となることが予想されるため、さらなる行財政改革をすすめ、各種財政指標の逡減を図ることが重要である。

審査の結果、下記について指摘事項が認められたので改善を図られたい。(指摘事項)

### ① 町税等の収入未済額の解消について

町税等の収入未済額の徴収については、催告、督促、さらに差押え処分を行うなどの努力により1,885千円減少している。しかし、病院会計を除く平成31年度末の収入未済額は7,219千円に達しており、所得格差の拡大など社会的な増加要因はあるが、納税者、利用者に対して不公平感を与え、納税、納付意欲の低下を招くことがないように、より一層収入未済額の減少に努めていただきたい。

### ② 委託料で策定された各種計画等について

本年度で策定された計画等にかかる経費は、観光振興計画フォローアップ事業で27,511千円(敏音知地区・宿泊施設再整備基本計画策定業務委託料14,520千円、スタートアップ事業委託料12,991千円)、総合開発委員会事業で8,271千円(総合計画策定支援業務委託料)などがあり、また昨年度においては、観光振興計画フォローアップ事業で16,505千円(観光振興計画スタートアップ事業委託料)、地域自殺対策事業で4,428千円(自殺対策計画策定業務委託料)など高額な町費が投入されている。計画については、交付金及び補助金等の申請で必要となることもあるが、策定した計画を有効活用することで業務の推進を図られたい。また、今後においても計画に投資した経費が無駄にならないよう効率的な運営に努力されたい。



**発行：中頓別町**

**編集：総務課政策経営室**

〒098-5595

北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6

TEL (01634) 6-1111 FAX (01634) 6-1155

<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp/>